

NEWS IN BRIEF

Scheduling problems beset delayed Mars mission

延期された火星探査計画を悩ませる打ち上げ日程の問題

Nature Vol.457(248)/15 January 2009

実施が延期された米航空宇宙局 (NASA) の「マーズ・サイエンス・ラボラトリー (MSL)」ミッション (右写真) が、ゆとりのない打ち上げスケジュールの中から打ち上げ日を決めようと動き回るなかで、さらなる問題に直面している。

原子力電池駆動の探査車 MSL は、火星上に生物が生息していたことを示す証拠を探索することになっており、当初の計画から 2 年遅れの 2011 年末までに打ち上げが予定されている。

MSL ミッションにとっての最初の打ち上げ可能時期は 2011 年 10 月だが、

その場合には、木星の磁場と重力場を調べるミッションであるジュノーの打ち上げが同年 8 月に予定されているために厳しい制約を受けることになる。第 2 の可能時期は 12 月なのだが、そうになると火星への着陸地点は北半球が有利になり、火星上で MSL が探査すべき地域をめぐる論争が再燃するおそれがある。このジレンマを解決するために、既に大幅な予算オーバーとなっている MSL ミッションに対して 5000 万米ドル (約 45 億円) の追加支出が行われる可能性があり、ミッション終了までの総



予算が最大 23 億米ドル (約 2100 億円) まで膨れ上がることが予想される。

この記事のロングバージョンは、<http://tinyurl.com/9j3ptj> を参照。

